

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 揖斐		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192600027&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームは少人数の利用者様が入居されているので、利用者様の身体面、精神面を考え、きめ細かい支援を行えるように努めている。今年から職員の制服を変えたり、定期的に接遇研修をしたりと心機一転し、利用者様の接遇に力を入れている。また、庭作りや畑作り、家事を一緒にしていただいたり、定期的に音楽療法やりハビリを取り入れたりと、楽しく活動的な生活を送っていただけるように工夫している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、四季が感じられる自然環境の中で、利用者が穏やかでゆったりと生活ができることを大切にしている。また、看護師・介護福祉士・社会福祉士・栄養士等、専門職員の配置により利用者・家族が安心できる体制ができています。併せて、子育て中の職員に対しても学校の行事への参加や子どもの病気に対しても理解や配慮があり、勤務時間の変更もできるなど、職員が安心して仕事ができる環境づくりに配慮し、職員が心身共に健全な環境で、利用者の支援ができるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に掲示し、職員も外部の方からも見えるようにしている。また、年度初めに、運営理念について研修を行い、意識確認をしている。	地域密着型サービスの意義を充分理解し、ホームの理念として共有し、施設内に掲示し、月1回の全体会議の中でも確認している。また、新規採用時には、新人研修の計画の中にも組み入れ、ホームとしての理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のお祭りや、清掃活動に利用者様と参加したり、近所を散歩すると挨拶をかわしている。庭の畑も近所のご夫婦に手伝っていただき野菜を育てている。夏には町の花火大会に合わせて、施設で祭りをを行い地域の方に開放している。	地域の人と利用者との協働の野菜作りをはじめ、ホームと地域で互いに行事案内が行われているなど、地域との結びつきは深い。特に花火大会などは、屋台も設置され、利用者、職員、地域の人、利用者や職員の家族の参加で、大いに盛り上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長さんや民生委員さんに運営推進会議や行事に参加していただき、認知症について理解していただけるように話をしている。また、施設内で行う認知症研修の資料等を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の頻度で、地域包括支援センターの職員、区長、民生委員の方に参加していただき事業所の取り組みを発表している。また、いただいたご意見を全体会議で報告し、活かすように努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議は行政、地区の参加を得て開催されている。ホーム側からの日頃の取り組みについての報告後、地区の相談窓口としての場になり、地区参加者の情報交換の場としての機能も充分備わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の毎月の会議や研修会に参加して事業所の取り組みを伝えている。また、困難事例を相談したり協力していただいている。	地域包括支援センター主催の毎月の会議、および、研修会への参加など、日頃から行政との関わりも深く、ホームに持ち込まれる困難事例に関しては、随時相談や協力してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的に行い、職員全員が理解を深めるように努めている。また、利用者様が認知症ということで、緊急やむを得ない場合についても話し合い慎重に取り組んでいる。	ホームの広い敷地周りにはフェンスが張られ施錠してあるが、玄関に施錠はなく、恵まれた自然環境により、拘束感はない。身体拘束については、研修を通じたり、日頃の介護の現場のなかで職員全員が認識した取り組みが確実に実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する研修を定期的に行い、職員全員が理解を深められるように努めている。また職員がストレスを溜めないように、管理者に相談できる雰囲気を作るようにしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法令順守に関する研修は行っているが、権利擁護に関する研修は計画中である。職員全員で学び、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、文書で説明し、不安や疑問点を聞き理解していただいている。また、不明な場合はいつでも連絡して下さるようお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の外部評価時に、アンケートをしていただいた結果を職員全員で話し合い、ケアの向上に努めている。また、それを掲示したり、運営推進会議で発表している。日常の利用者様の要望については、担当を決め、毎月話し合っている。	外部評価時のアンケート結果などをもとに、家族の思いや意見を、職員全員で検討している。管理者は常に家族の声に耳を傾け、少しでも満足してもらえるケアに心掛けている。職員は利用者が気軽に要望をいえる雰囲気づくりに心がけ、会議等で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で、代表者、管理者も出席し、職員の意見や相談、提案を聞いている。また、2ヶ月に一回各事業所の主任、介護支援専門員等と、意見会を開き、運営に反映している。	主任や副主任は、職員が職員会議の場だけでなく、いつでも自分の意見が気軽に言えるアットホームな関係づくりを心がけ、出てきた意見はホームの運営に活かしている。時には、管理者自らが利用者のケアに携わり、職員の思いを理解している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の能力が発揮できるポジショニングを考え、やりがいを持って働ける職場作りに努めている。また、子育て中の職員も多数いるため勤務時間にも考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員全員が同じように、スキルアップできるように勉強会を開催している。また、段階に応じて外部の研修受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や介護支援専門員、職員に地域の研修や勉強会、会議に積極的に参加してもらい、同業者の方の意見を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の身体状況、精神状態を把握したうえでご本人、ご家族が納得出来るまでアセスメントを詳細に行い、安心、安全に生活できる環境作りの確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問して頂き、ご家族の方の悩み、不安、要望等を伺っている。また、アセスメントを中心にこれからどのような方向で支援させていただくのが良いか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望、現段階でのケアの必要性を話し合っている。時には主治医に意見を求めながらサービスを調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様は‘人生の大先輩’であることを念頭に置き、支援をさせていただくようにしている。利用者様それぞれの得意分野を活かし、教えて頂くことで、喜怒哀楽を共にする関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は、必ず近況報告をしている。また、要望やご意見を伺いケアに活かすようにしている。変化があれば電話連絡で報告、確認し、3カ月に一度は文書にて近況報告を郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、友人の方との面会も自由にしていただき、ゆっくり話ができる環境を整えている。要望があれば、馴染みの場所へ外出している。	馴染みの人との関係を継続するため、ホームを訪れる人を歓迎し、玄関には部屋が用意されている。利用者の要望があれば、職員が馴染みの場所へ同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に共有スペースを利用していただき、気の合った方同士で、お食事やお茶の時間が楽しめるように支援している。少人数で気兼ねなく楽しめるようにいくつかテーブルセットを用意する等工夫している。会話の内容に職員が耳を傾け、トラブル防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了した場合、関係者に対してご本人の今後の生活に支障がないように、詳細に情報提供している。また、サービス終了後も相談支援等に応じることも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の性格や習慣をアセスメントし、情報を収集している。それを職員全員が把握し、ご本人に合ったケアをするように努めている。	利用者の個別対応には職員の担当制をとっており、より深く関わることで一人ひとりのこれまでの暮らしや思いを、きめ細かく把握している。また、職員は利用者やゆとりを持って関わることを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活環境、どのような道のりを歩んでみえたかを、ご本人、ご家族との話の中で把握し、支援に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ノートを利用し、一日の過ごし方やその中での変化等を記録し、情報を共有することで一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議をご本人、ご家族、担当者で行い、モニタリングや介護記録を参考にして介護計画の作成を行っている。	介護計画は、利用者・家族・担当職員がモニタリングや介護記録を参考にして作成している。参加できない家族に関しては事前に便りなどで確認し、きめ細かな取り組みがされている。また、新規の利用者には、利用者・家族の思いを最大限汲み取る努力をして、暫定プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のモニタリングと、毎日の個別記録を行っている。その情報を朝のミーティングや全体会議で把握し、気づきや工夫点など皆で話し合っ情報把握し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう、各職員が能力を発揮できる職場作りをしている。(整体師によるリハビリ、機能訓練。 ピアノ教師による音楽療法。理容師による散髪。栄養士による栄養管理等)		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の商店やホームで飼っている犬の散髪に近所のペットショップを利用したり、地域の清掃活動やお祭りに利用者様と参加させていただいている。ホームでは花火大会を行ったりして地域に開放し、参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の大半はホームの協力医がかかりつけ医となり、月2回の往診を行い健康管理している。また、ご家族にも協力していただき、迅速に対応できるように努めている。受診はなるべくご家族にお願いし、どうしても行けない場合は有料で行っている。	入居時にホームとしての方針を説明し、家族の同意を得て、利用者様の大半はホームの協力医をかかりつけ医としている。また、受診は基本的には家族に依頼しているが、家族の都合で同行できない場合は、ホームの職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ぬくもりの家 大野の方に看護師が常勤しているため、状態の変化や体調を崩された利用者様の様子を伝え、主治医に連絡し対応している。年に2回、3回は看護師と共同で勉強会を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリー等を迅速に提供し、安心して治療ができるようにしている。途中の治療経過や様子も病院側と情報交換し、できるだけ早期に受け入れられるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時の際、重度化や終末期を迎えた場合をご本人、ご家族と話し合いをしている。また、体調が変化した場合はその都度、ご家族、主治医、看護師、介護職員で話し合い、連携しながら取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては、入居時に詳しく説明し、その都度利用者・家族・主治医・看護師・介護職員で充分検討し対応している。また、看護支援が中心になった場合は、利用者・家族の了解のもと系列の施設に移動することもある。	重度化や終末期に向けての方針を更に具体的に検討し、家族との確認事項として文書に残すことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、落ち着いて適切な対応ができるよう年2回研修を設けたり、その都度勉強会を行っている。連絡体制も見やすい場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力、立ち合いのもと、年2回の災害時訓練を実施している。避難経路の確保、災害時における近隣の協力依頼も行っている。(年1回は夜間の想定で行っている。)	消防署立会いのもと、近隣の協力も得て、年2回の災害訓練が実施され、避難経路も確保されている。	近隣の協力のみならず、運営推進会議の委員にも、災害時には地域住民の協力が不可欠であることを理解してもらい、今年度の災害訓練等は、運営推進会議の委員などに協力を呼びかけ、実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切に、丁寧な言葉使い、対応を最も重視している。年2回、ホームで接遇研修を行ったり、他の研修にも積極的に参加して学んでいる。部屋は個室で、ドアが閉まっても小窓で様子を確認でき、プライバシーの確保と同時に安全面にも気を付けている。	職員の穏やかな言葉使いが心地よく、利用者的人格が尊重されているのがよく伝わってきた。部屋には、目の高さの小窓があり、さりげなく部屋の中の様子を確認することができるようになってはいるが、使い方については、利用者の意向を確認し、ハンカチで目隠しする配慮もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的なケアにならないように注意しながら、会話の中で利用者様の気持ちをキャッチし、思いを大切にしながら支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で過ごす時間より、個人の生活ペースを優先して、望んでおられる過ごし方を、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髪を整え、好みの洋服を選び一日を気持ちよく過ごせるように支援している。髪型や毛染めもご本人の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立で使う野菜を、庭の畑で収穫していただいたり、洗ったりして食事の準備を行っている。また、お箸を使えないなど能力にあわせて、食事内容を変え(手で食べられるようおにぎりにする、食べやすい大きさにする等)自分で食べる喜びを支援している。	献立が職員の栄養士によって立てられ、バランスの取れたものとなっている。食材は購入するものもあるが、野菜は自給自足のものも多い。広い敷地を利用し、利用者や近隣による協働作業で種から育て、収穫の喜び、食べる喜びに溢れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の栄養士がカロリー計算をして献立をたて、毎日の必要な栄養を確保している。摂取量や排泄等を記録し、健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にお一人お一人に言葉をかけながら、口腔ケアを行っている。出来ない方は、うがい等でケアをしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを考慮し、それぞれの間隔で声かけて、自立排泄が保てるように支援している。	昼間は、利用者の排泄のリズムを把握することによりさりげなく誘導を行っている。ホームにトイレの数も多く利用者は、待つことなく、排泄リズムに合わせてゆっくり利用することが出来る。利用者の中には、夜間のみ居室にポータブルトイレを置き、転倒に配慮するなど、利用者の状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をつけ、個々の排泄を確認している。便秘の場合、食べ物や水分を考慮しながら自然排便を促している。改善しない場合は、主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、曜日は決めてあるが、ご本人の希望に合わせていつでも入っていただいている。入浴時間も、希望に合わせて楽しんでいただけるように支援している。	週2回の入浴が原則であるが、要望に応じて多くすることもある。職員の見守りの中、ゆっくり湯船に浸かりたい人、職員と世間話をしながら入浴する人、希望する時間に入浴をしたい人など、入浴を楽しんでもらう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や習慣を考慮し、自然なリズムで安眠していただけるように促している。寝付けない時には、話を聞いたり、温かい飲み物を提供したりして、穏やかな気持ちで眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を用いて、薬の目的、副作用を確認するよう努めている。配膳の際は、確認し、声かけをして服用していただいている。薬による変化等があった場合は主治医に連絡をとり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設で飼っている愛犬の散歩や、庭の手入れ等好きな時間を過ごしていただいている。また、週に一度音楽療法や、リハビリ、体操等楽しんでいただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で外出に同行したり、買い物や喫茶店、外食等をしていただいている。また、近所のお寺へ行ったり、お祭りに参加して地域の方にも協力していただいている。	利用者の希望を聞きながら、馴染みの寺や神社への参拝・本屋・菓子屋・ホームの食材の購入・喫茶店・外食など、機会をとらえて職員同行の外出がある。その他にも、地域の清掃活動に参加するなど、外出の機会がある。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には所持して頂き、要望に応じ職員と買い物等に行っている。自己管理ができない方には小口資金としてお預かりし、ご本人の希望で使用できるようにご家族に協力していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の精神状態を考慮したうえで、電話や手紙を書いていただいている。携帯電話を所持され自由にご家族に連絡を取っている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の間を自由に使用していただき、それぞれ好きな場所で過ごしていただいている。心地良い音楽を流したり、落ち着かれるように照明を落して居心地の良い空間作りを工夫している。また、季節に合わせて装飾したり畑で旬の野菜を収穫し献立に載せたりと、季節感を実感していただいている。	小高い敷地に建てられたホームは、敷地も広くゆったりと設計され、共有のスペースも多い。各部屋には、ベランダがあり、玄関の横にはデッキも設置されている。朝はドアや窓が開け放たれ、採光も充分で、利用者は思い思いの場所でゆったりくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が話をしやすいように場所を幾つか設けている。自由に居室に戻っていただき、個々に合わせた生活リズムに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に安心、安全を考えた居室を提供し、なじみの家具や置物、仏壇、小物等を使用し、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	広いスペースのどの部屋にも、利用者が以前使っていた家具や小物類・写真・洋服などが置かれ、『わたしの部屋です』と自慢できる居心地のいい部屋となっており、個性的である。仏壇の置いてある部屋もあり、利用者にとってもくつろげる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から玄関、食堂、トイレの距離、窓から見える背景にまで、利用者様の心身の状態に合わせた環境作りに努めている。施設内はすべてバリアフリーになっており、福祉用具を使用して活動的に生活できるよう工夫している。		